



6月度の
の御書

「日眼女造立釈迦仏供養事」

御文

譬え、頭をふれば髪揺る。心はたらけば身うごく。大風吹けば草木しずかならず。大地うごけば大海さわがし。教主釈尊をうごかし奉れば、ゆるがぬ草木やあるべき、さわがぬ水やあるべき。

(御書新版1610ページ、御書全集1187ページ)

意味

たとえば、頭をふれば、かみがゆれる。心が働けば、体が動く。大風が吹けば、草木もゆれる。大地が動けば、大海もあれ。同じように、教主釈尊(御本尊)を動かせば、ゆるがない草木があるだろうか。さわがない水があるだろうか。

獅子王のパワーをみなぎらせて

やあみんな、ライオン博士のキング君だよ！ 今回は「どんなことも、良い方へ動かす方法」を学んでいくよ。

例えば、頭を右、左ってふると、いっしょにかみの毛がゆれるよね。また、心が喜んだり悲しんだりすると、笑ったり泣いたり、気持ちが行動に表れる。

それから、自然の世界では強い風が吹くと、草や木がゆれる。大地が動くと、海に波が起こる。このように、自然も人間も、根本を動かすと、それといっしょにつながっているものが動くよね。

日蓮大聖人は、この例えを通して、「全ての根本である「教主釈尊」を動かせば、できないことなんてない！」と教えられているんだ。

えっ、「教主釈尊」って何？って思うよね。

「教主釈尊」とは、ボクたちでいえば御本尊のこと。そしてそれは、ボクの中にも、みんなの中にもある「仏」の生命のことでもあるんだ。「仏」の生命とは、何があっても負けない、一番強く、最高の宝物の生命なんだ。この「仏」の生命を動かせば、何だってできるんだよ。困ったり、なやんだりしても大丈夫。絶対に「良かった」と思えるようになるよ。

みんな、毎日たくさんがんばっていると思う。遊びの時間をがまんして宿題をすること、苦手な野菜を食べてみることに、勉強やスポーツの目標に向かってコツコツ努力すること、自分の心と体を大事にすること。本当にえらいんだ。

そんな一つ一つの目標に向かって進もうとする時、根本となるものは何か。勇気、自信、情熱とも言えるけど、これが「仏」の生命なんだ！ では「仏」の生命を動かす方法とは何か。それが、御本尊に真げんに祈ることなんだよ。

池田先生は語られているよ。

「みなさんの生命には、無限の可能性があります。その力を引き出すのが、『南無妙法蓮華經』の題目です。題目は「獅子吼」といって、百獣の王・ライオンのおたけびのように、絶対に負けない力です」と。

お題目を唱えて、「仏」の生命を動かし、獅子王のパワーがみなぎってきた時、ボクたちは何にでも挑戦できる。

みんなの獅子王らしい、カッコいいお題目の声を想像したら、ボクも勇気がわいてきたよ！ よーし、今日もお題目をあげてチャレンジするぞ！